

今月のこの1冊

森見登美彦の京都ぐるぐる案内

森見 登美彦 著

森見登美彦氏の小説は、京都を舞台に繰り広げられることが多い。

本書は京都の名所旧跡を案内するものではない。

著作に登場する京都の川べりや建物などがサカネユキ氏の写真と小説の一節により紹介されている。森見文学をたどるのにちょうど良い一冊である。

写真には、森見氏が所在なげにたたずんでいる姿も見られる。



新着本案内 (主なもの)

★ 一般書 ★

- ・「マザーズ」 金原ひとみ
- ・「よろずのことに気をつけよ」 川瀬七緒
- ・「跡を濁さず」 中村彰彦
- ・「チロル、プリーズ」 片川優子
- ・「馬たちよ、それでも光は無垢で」 古川日出男
- ・「紅梅」 津村節子
- ・「癌だましい」 山内令南

★ 児童書 ★

- ・「カンコさんのとくいわざ」 角野栄子
- ・「ありんこのアリー」 みやにしたつや
- ・「斉藤さんがゆく」 祐天寺与太郎
- ・「ダーウィンと出会った夏」ジャクリーン・ケリー
- ・「ようかいガマトの」 よしながこうたく

みんな集まれ！子どもの広場・おはなし会

◇子どもの広場

- 内容 「変装めがね」をつくります
- 持ち物 ハサミ 油性ペン
- 日時 10月22日(土) 10:00～
- 場所 町民センター2階 小会議室A
- 申し込みは直接図書館へ または、☎82-5221

◇10月のおはなし会 (第2土曜日、第3水曜日) ◇

- 日時 10月8日(土) 10:30～
- 10月19日(水) 15:00～
- 場所 町民センター3階図書館
- 申し込みはいりません

毎月1日は、【開成ファミリー読書デー】
家族みんなで本を読もう！

● 家庭・地域・学校などでの読書活動を推進するため、開成町では毎月1日を「開成ファミリー読書デー」にし、読書活動の定着・推進を図ります。

*文芸

開成町俳句協会

俳句

定年の無き人生や稲の花
遠藤マツエ

天空の神が怒るか秋の雷
遠藤美津子

コスモスや山肌染める過疎の里
鳥海美代子

触れた袖うすき香残し山椒の実
奥津ちわき

ぬばたまの闇貫けり秋の雷
遠藤シズ子

稲は早稲、中稲、晩稲とあるので花の咲く時期はまちまち。二十日前後が盛りとなる。命には限りがあるが、命ある限り、人生に定年はない。

近藤 正臣 選

ともしび短歌会

短歌

八月詠

夏来れば釧路での旅懐かしむ
啄木の歌碑 洪蕃薇の群れ
石井はま江

こんなのにも小さな水輪作りたる
タンポポの綿毛天より落ちてきて
吉田 志麻

節電に風の道など工夫せり
猫は涼しき場所を知りある
府川ハツエ

小池での小さな水輪の因は、タンポポの綿毛であつたとの驚きと感動を詠っている。池の静から動への変化の一瞬を捉えた作者の繊細さが、倒置法と初句の表現により、詩的雰囲気を出させた。



松田警察署
延沢駐在所 ☎83-5434
吉田島駐在所 ☎83-5457

「安全・安心まちづくり旬間」が実施されます

10月11日(火) から20日(木) までの10日間、県内一斉に「安全・安心まちづくり旬間」が実施されます。この運動は、地域住民やボランティアの皆さん、自治体や警察等が連携して、安全で安心して暮らせる地域社会を実現させることが目的です。

【運動の重点項目】

- ① ひったくりの被害防止
カバンは車道と反対側に持ち、後ろから来るバイクなどに気をつけましょう。自転車の前かごには防犯ネットをつけましょう。
- ② 振り込め詐欺の被害防止
振り込め詐欺で最も多くの被害が発生しているのが、身内を装う「オレオレ詐欺」です。
「オレオレ詐欺」では、事前に「携帯電話の番号が変わった」という電話があるケースがほとんどです。このような電話がかかってきたら振り込め詐欺であると疑いましょう。
- ③ 子どもと女性の犯罪被害防止
子どもを外出先や帰宅時間を把握し、暗くなる前に帰宅させるようにしましょう。
女性の方は、夜間は遠回りでも明るく人通りの多い道を選びましょう。
- ④ 住宅を対象とする侵入犯罪の防止
少しの外出でも必ず戸締りをする、ドアや窓には複数の鍵をつけるなどの対策を行いましょ。
- ⑤ 万引き・自転車盗の防止
防犯カメラの設置や店員による声掛けなどで万引き被害を防止しましょう。
自転車には、必ず複数の鍵をかけましょう。



ぶらりと歩きながら開成町の文化を発見、歴史を再確認してみませんか。開成町に残る遺蹟を紹介します。



弥一芋

実りの秋、かつて開成の地で盛んに作られていた、里芋「弥一芋」の歴史とその復活の動きを紹介いたします。「弥一芋」は弥一郎という人の名前に由来しています。この通称「やいっさん」は酒田村金井島本郷、瀬戸喜右衛門の次男(瀬戸要氏の祖父の弟)として生まれ、明治三十三年(一九〇〇)年、桜井村栢山の高井家に婿入りしました。同三十六年親戚の法事に招かれた前羽村常念寺で、住職から大和の国より持ち帰った種芋三個をもらって育てたのが始まりです。収穫して食べてみると格別に旨い芋でしたので実家の瀬戸家をはじめ近隣に配って回ったところ大好評で、以来、多くの人に作られ、戦前には関東一円に広まりました。

やがて、昭和から平成という時の流れの中で、「弥一芋」はいつの間にか忘れられ、消えかかっていた。そこで県で保存されていた種芋を基にして、開成ゆかりの芋を復活させようと、今春「弥一芋研究会」が生まれ、会員による栽培が始まりました。やがては開成駅前の「マルシェ・かいせい」でも販売されます。また親芋を利用して焼酎を造ろうというプロジェクト「焼酎弥一を楽しむ会」もできました。



弥一芋は2m位まで成長し、葉が水平に広がる連葉系の里芋です。写真は金井島の芋畑で撮影したものです。地図の★印のところで主に作っています。

※お子さんも読めるようにふりがなを付けています。
(文責 文化財保護委員会 遠藤 将光)